

對馬	6. 9	6. 14	陸	海	0	
雄	6. 11	6. 15	陸	海	0	
四	"	"	陸	海	0	
遠	"	6. 17	陸	海	0	
初	"	"	陸	海	0	
Y	34	6. 12	陸	海	0	
雪	風	6. 13	陸	海	0	
ぼ	た丸	"	陸	海	0	
Q	26	6. 19	陸	海	0	
Q	56	6. 14	陸	海	0	

占	守	丸	城	久	鷹	辰	球	丸	高	海	陸	海	0	
Q	85	6. 14	6. 14	6. 19	6. 21	6. 25	6. 25	6. 26	6. 25	6. 25	陸	海	0	
占	守	"	"	6. 21	"	"	"	"	"	"	陸	海	0	
英	丸	"	"	6. 21	"	"	"	"	"	"	陸	海	0	
萬	城	"	"	6. 20	"	"	"	"	"	"	陸	海	0	
宇	久	"	"	6. 24	"	"	"	"	"	"	陸	海	0	
若	鷹	"	"	"	"	"	"	"	"	"	陸	海	0	
辰	球	"	"	6. 25	"	"	"	"	"	"	陸	海	0	
Y	31	6. 21	6. 21	6. 26	6. 25	6. 25	6. 26	6. 26	6. 25	6. 25	陸	海	0	
高	"	"	"	6. 25	"	"	"	"	"	"	陸	海	0	
Y	78	6. 25	6. 25	6. 28	6. 28	6. 28	6. 28	6. 28	6. 28	6. 28	陸	海	0	

V	12	上	海	6. 21	6. 27	陸	2,110	0	
神島丸	ハコヅツ				6. 26	陸	2,110	0	
○	27	朝鮮群山		6. 22	6. 28	陸	4,512	1	検入済
V	59	ハコヅツ			6. 26	陸	3,199	0	
V	008	上	海		7. 12	陸	2,532	0	
V	011				6. 28	陸	2,512	0	
V	93			6. 23		陸	2,498	0	
春	月	ハコヅツ		6. 27	7. 1	陸	1,025	0	
鹿	島			6. 28		陸	1,318	0	
永	徳丸			6. 29	7. 3	陸	1,23	0	
						陸	2,120	0	

V	48	上	海	6. 30	7. 3	陸	2,532	0	
V	97				7. 5	陸	2,484	0	
V	49					陸	2,501	0	
信	洋丸	ハコヅツ			7. 6	陸	2,225	0	
						陸	1,091	0	
V	94	上	海	7. 2	7. 6	陸	2,413	0	
V	23			7. 3		陸	2,315	0	
V	95			7. 4	7. 8	陸	1,935	0	
						陸	253	0	
						陸	1,211	0	
						陸	3,050	5(2)	



この書は、昭和十一年三月に出版された「昭和十一年の日本」の「教育」の部である。

本書は、昭和十一年の日本の教育の概況を、その背景、動向、問題点を明らかにし、その将来の展望を論じている。著者は、教育行政の専門家であり、その豊富な知識と経験に基づいて、客観的かつ鋭い洞察を述べられている。本書は、教育関係者だけでなく、一般の読者にとっても、日本の教育の現状と将来を深く理解するための重要な資料である。

目次

一 教育行政の概況

(1) 教育行政の概況

(2) 経費概況

二 教育の概況

(1) 小学校

(2) 中学校

(3) 高等学校

(4) 職業教育

(5) 社会教育

(6) 教育行政の概況

(7) 教育の概況

(8) 経費概況

(9) 教育の概況

(10) 経費概況

(11) 教育の概況

(12) 経費概況

(13) 教育の概況

(14) 経費概況

(15) 教育の概況

(16) 経費概況

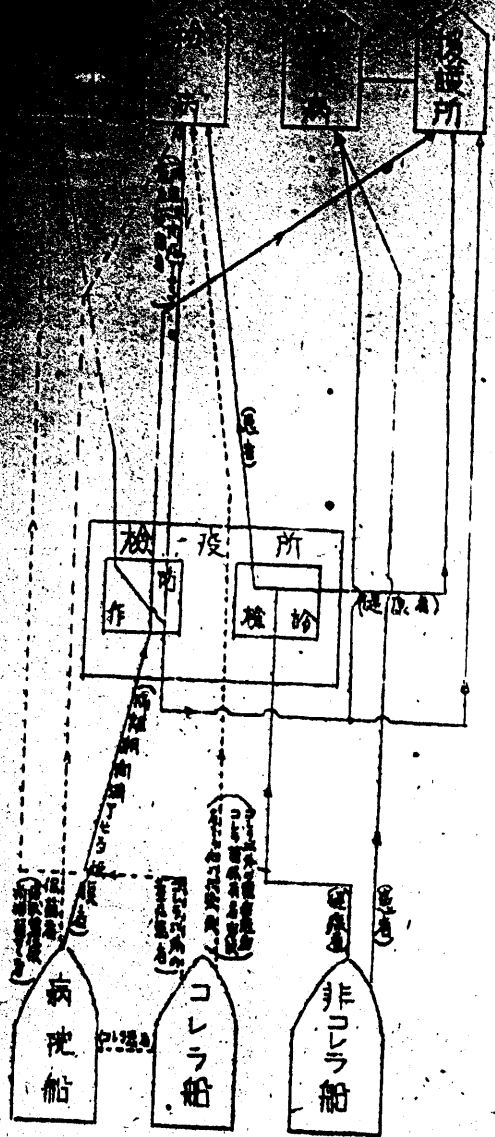
(17) 教育の概況

(18) 経費概況









(1) 検査所  
 (2) 検疫所  
 (3) 病室船  
 (4) コレラ船  
 (5) 非コレラ船

コレラ船として出港後六日以上の経過せるものは、検査の結果陰性ならば揚陸、揚陸時の検査を要せず、揚陸所にて五日間観察し、検査成績陰性ならば揚陸せしめる。  
 コレラ患者同乗者、同乗者、コレラ以外の疾病の重症のものは揚陸、揚陸後陸上施設に收容す。五月三日病院船到着後は、コレラ患者のみ病院船に收容した。これを典型的に圖示すれば次の通りである。

(三) 消毒  
 (1) 船内  
 コレラ船はコレラ患者を乗客とするには内におろさなくてはならぬ。この海上航行を以てしてその回数回の検疫を必要とし、大略三日間(四)の間その結果陰性ならば揚陸せしめ陸上施設を以て検査揚陸台に收容せしめ、観察せしめる。この二回検査を以てして陸上施設に收容せしめ、復元船にせしむる。屋上検査作業は検疫、検診、予防、入浴、身体、荷物、被服の消毒隔離等である。

(2) 船外  
 (1) 船内  
 (2) 船外  
 (3) 船外  
 (4) 船外  
 (5) 船外  
 (6) 船外  
 (7) 船外  
 (8) 船外  
 (9) 船外  
 (10) 船外

(三) 消毒  
 (1) 船内  
 コレラ船はコレラ患者を乗客とするには内におろさなくてはならぬ。この海上航行を以てしてその回数回の検疫を必要とし、大略三日間(四)の間その結果陰性ならば揚陸せしめ陸上施設を以て検査揚陸台に收容せしめ、観察せしめる。この二回検査を以てして陸上施設に收容せしめ、復元船にせしむる。屋上検査作業は検疫、検診、予防、入浴、身体、荷物、被服の消毒隔離等である。

(2) 船外  
 (1) 船内  
 (2) 船外  
 (3) 船外  
 (4) 船外  
 (5) 船外  
 (6) 船外  
 (7) 船外  
 (8) 船外  
 (9) 船外  
 (10) 船外



日誌

検査作業を適量して、大体二八を初、中、終の三期に分かつてやる。

初期四月五日より四月二十六日頃まで

この期間は施設、人員、資材は舟艇が足りぬ真において不足し、苦心の夕かつた時期である。即ち消毒施設は殆どなく消毒ポンプですら三、四回を有する程度であり、衣服、その他の消毒機は第三号SK式消毒機が久里浜検疫所内に一基ありその他浴槽改造の器具消毒室(一室約一七一七立方水)ホルマリン消毒室(室)三〇、六の立水)がいづれも久里浜検疫所内にあり。

検査施設は一日三千人(最大四千五百人)の能力を有するのみであり、防疫に必要な各種資材及び検品等は充分なかつた。

職員も定員数は一六七名、殊に検査課は総員四十九名にて著しく不足し、又毒の大部分を検査実施の場面に注入し、而かも一日の休業とて與へる暇なく毎日過重なる作業の連続であつたのである。

海上隔離であつたため作業員は舟艇に便乗して浦賀港に碇泊中の船隻に向ふのであるが、検査所専用舟の舟艇は全く、獨自の運航部より曳船一隻を借用したために、運用上幾多の困難があつた。蓋し極めて危険であることと、午朝より夜遅くまでの休みなしの作業は相當の重労働であつたからである。しかし舟艇員も次第にこの作業の重大性を認識し、後には積極的に協力して貰へるやうになつた。

舟艇は毎日、日の出と同時、検査所右岸に回航して来る。

検査所ではそれにドラム缶、前、藥品資材等を搭載し〇九〇〇検出發する。各船隻を順次に回航しながら検査官、同助手及び必要資材を乗船し、午後には又同様にして船を巡回しながら、検査官、同

助手、要員を乗船し、検査所に戻り、検査所では大體検査完了となり、夜十時頃になる事が多かつた。右岸に歸着すれば検査官をはじめ、作業員も休む事を希望し、船体の処理等を行ひ、やつと一日の仕事がすませることになるのである。

職員も不足は仕事を分業にすることができず、一人の人が幾多の仕事をしなければならなかつた状態であつた。患者と容疑者は約六科船れた国立久里浜病院に収容した。

四月十二日に、患者と容疑者は約六科船れた国立久里浜病院に収容した。四月十二日検査所内には検査病室(二棟三三〇〇人収容)を設け、四月十二日に検査所内には、患者と容疑者は国立久里浜病院に収容した。

検査所内には、患者と容疑者は国立久里浜病院に収容した。四月十二日に検査所内には、検査病室(二棟三三〇〇人収容)を設け、四月十二日に検査所内には、患者と容疑者は国立久里浜病院に収容した。

四月十二日に、患者と容疑者は国立久里浜病院に収容した。四月十二日に検査所内には、検査病室(二棟三三〇〇人収容)を設け、四月十二日に検査所内には、患者と容疑者は国立久里浜病院に収容した。

検査所内には、患者と容疑者は国立久里浜病院に収容した。四月十二日に検査所内には、検査病室(二棟三三〇〇人収容)を設け、四月十二日に検査所内には、患者と容疑者は国立久里浜病院に収容した。

検査所内には、患者と容疑者は国立久里浜病院に収容した。四月十二日に検査所内には、検査病室(二棟三三〇〇人収容)を設け、四月十二日に検査所内には、患者と容疑者は国立久里浜病院に収容した。

船に立上る者の数も著しく増進したのである。  
 船中の衛生は、船上における、各種の補助機関ができてから、同じ連絡を関係各部に、衛生に  
 水は、あらゆる準備は整頓して完成し、ただ、班員は、臨船時の検査に専念すればよいことにな  
 ったのである。しかし尚人員は一杯と云ふ所であつて荒天に際して、止むを得ざる時にのみ、休暇  
 が与へ得られる状況であつた。

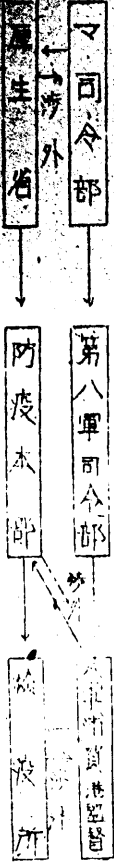
舟は、備船百五十隻船六隻及び米軍の援助による七隻の整備にやり、充分の余裕をもつて、使用す  
 ることのできるやうになり、従つて検査所全体の作業時間も著しく短縮され、夜間にまで作業の及  
 ぶことはごくまれとなつた。又日出時間も早くなつてきたために、臨船時の出発も約一時間を繰上  
 げ、八時乃至八時三十分には出発できるやうになつた。

鬼島の取締に内しても、医療隊の諸君のことに、受け入れ難かりなつた。検査病棟、国立久里決病  
 院に収容することになり、検査隊の作業の負担は減少した。

五月十一日頃より、六月上旬作業の終了するまで。  
 この期間に検査に必要なる人員、物資は確保せられ、消毒施設、検査施設等も擴大整備せられたる  
 る。これらの施設は、五村離れたる久里決橋渡所であり、作業の準備上には未だ幾分の困難があ  
 つた。一方、検査の要効は著しくあがり、昨日は一隻、今日は三隻と、毎日のやうに隔日は解除せ  
 られ、更らに場内での検査施設をうけて、天々宿舎に収容せられる難堪者も、増加して、六月四日  
 には、最後のV〇八六号が、隔離解除せられ、この巨大な作業も終止符をうつたのである。

検査の施設

四月十八日、衛生管理引渡の完了した。検査本部長として、  
 検査加衣々田河崎に就任した。検査本部長の職務は、衛生管理の場面にござり、本部長を補佐し、田村崎  
 託は早も傍外事項を掌つた。従つて所長に内務方面を委託し、次回の通りになつた。



検査作業に際しては、衛生管理の引渡が完了した。検査本部長として、  
 検査加衣々田河崎に就任した。検査本部長の職務は、衛生管理の場面にござり、本部長を補佐し、田村崎  
 託は早も傍外事項を掌つた。従つて所長に内務方面を委託し、次回の通りになつた。

船に赴き船内衛生状況の調査、規定に基づき諸調査、伝染病患者の  
 打合せ、検査作業、消毒、連絡、治療品、その他の補給等、重要な検査  
 検査作業にあつた。四十人からの検査をするに、殊に検査の十五分の  
 検査作業にあつた。四十人からの検査をするに、殊に検査の十五分の

船内の消毒が、又本作業であった。手押ポンプ及び如影等にて破損噴霧散布をするが、船内には  
腐く且つ毛布荷物も相当にあり肉体的に大労働であった。船内、船外、船中、船外、船中、船外、船中、  
受けて破棄に消毒した。可及的於疫病の発生を防止するため、自らは自分の荷物をあまり濡れせ  
しめることを欲しなかつた。消毒が完了した後は、船内は消毒された。消毒が完了した後は、船内は消毒された。  
臨時班員の苦勞したことは、船内には消毒された。消毒が完了した後は、船内は消毒された。消毒が完了した後は、船内は消毒された。  
臨時班員の苦勞したことは、船内には消毒された。消毒が完了した後は、船内は消毒された。消毒が完了した後は、船内は消毒された。

船内の消毒が、又本作業であった。手押ポンプ及び如影等にて破損噴霧散布をするが、船内には  
腐く且つ毛布荷物も相当にあり肉体的に大労働であった。船内、船外、船中、船外、船中、船外、船中、  
受けて破棄に消毒した。可及的於疫病の発生を防止するため、自らは自分の荷物をあまり濡れせ  
しめることを欲しなかつた。消毒が完了した後は、船内は消毒された。消毒が完了した後は、船内は消毒された。消毒が完了した後は、船内は消毒された。  
臨時班員の苦勞したことは、船内には消毒された。消毒が完了した後は、船内は消毒された。消毒が完了した後は、船内は消毒された。  
臨時班員の苦勞したことは、船内には消毒された。消毒が完了した後は、船内は消毒された。消毒が完了した後は、船内は消毒された。

### ④陸上検査

隔離解除の船は、直ちに揚陸が開始された。船内には消毒された。消毒が完了した後は、船内は消毒された。消毒が完了した後は、船内は消毒された。  
隔離解除の船は、直ちに揚陸が開始された。船内には消毒された。消毒が完了した後は、船内は消毒された。消毒が完了した後は、船内は消毒された。  
隔離解除の船は、直ちに揚陸が開始された。船内には消毒された。消毒が完了した後は、船内は消毒された。消毒が完了した後は、船内は消毒された。

コレラ発症当時、船舶検査官は久留米港内において、その船内には消毒された。消毒が完了した後は、船内は消毒された。消毒が完了した後は、船内は消毒された。  
コレラ発症当時、船舶検査官は久留米港内において、その船内には消毒された。消毒が完了した後は、船内は消毒された。消毒が完了した後は、船内は消毒された。  
コレラ発症当時、船舶検査官は久留米港内において、その船内には消毒された。消毒が完了した後は、船内は消毒された。消毒が完了した後は、船内は消毒された。



初日の夜は、舟艇が一隻であったために、これに收容艦を便所とし、各船泊を巡回して患者を  
収容した。中畑に入つた。舟艇を増加してからは、各校校舎やその外に收容の患者を乗艇に移し  
岸壁にて主跡隊の便所を、数ヶ所に設けた。船泊より舟艇へ患者を移送せしめるには、デブア  
アテおろしたり、陸艇艇具、吹雪艇具が其の用を充ち、五等舟の乗員等は夜交で移送し  
た。重症患者にして、船泊乗艇上にて息を絶するものも、火葬場へ移送して火葬せしめる等もあ  
つて、特種な感にうたれることも多かつた。

③ 河原準備作業  
コレは防疫に必要なる物資は、毎日相当の量に求め、特別に物資を準備する備を定め、臨  
海堤岸の奥に應じ、海軍病院等は講求或は依頼し、作業の完全なる進行及円滑なる運営に努力  
した。志合の物資の一として、假設使前船のドラム缶をけしめ、手洗鉢、消臭用器具等であ  
る。又、コレ等は全材海軍に於て海軍の所内における準備も擔當し、毎日日中は他隊又は部外  
の物資を求め、夜間は翌日の物件の準備をする事務を施めたのである。

④ 検便作業  
船艇の一件あたりに検便の作業は大作業であるため、これを担当する船員等の準備、検便作業の  
実施のため、舟艇は一ツの用を改良した。舟艇の検便を容易にするため、舟艇の検便を容易にする  
検査所を舟艇の舟艇、離れを舟艇に設けたのである。舟艇の検便を容易にするため、舟艇の検便を容易にする

舟艇の検便は、舟艇の一ツの用を改良した。舟艇の検便を容易にするため、舟艇の検便を容易にする  
検査所を舟艇の舟艇、離れを舟艇に設けたのである。舟艇の検便を容易にするため、舟艇の検便を容易にする

舟艇の検便は、舟艇の一ツの用を改良した。舟艇の検便を容易にするため、舟艇の検便を容易にする  
検査所を舟艇の舟艇、離れを舟艇に設けたのである。舟艇の検便を容易にするため、舟艇の検便を容易にする

舟艇の検便は、舟艇の一ツの用を改良した。舟艇の検便を容易にするため、舟艇の検便を容易にする  
検査所を舟艇の舟艇、離れを舟艇に設けたのである。舟艇の検便を容易にするため、舟艇の検便を容易にする

舟艇の検便は、舟艇の一ツの用を改良した。舟艇の検便を容易にするため、舟艇の検便を容易にする  
検査所を舟艇の舟艇、離れを舟艇に設けたのである。舟艇の検便を容易にするため、舟艇の検便を容易にする

舟艇の検便は、舟艇の一ツの用を改良した。舟艇の検便を容易にするため、舟艇の検便を容易にする  
検査所を舟艇の舟艇、離れを舟艇に設けたのである。舟艇の検便を容易にするため、舟艇の検便を容易にする

舟艇の検便は、舟艇の一ツの用を改良した。舟艇の検便を容易にするため、舟艇の検便を容易にする  
検査所を舟艇の舟艇、離れを舟艇に設けたのである。舟艇の検便を容易にするため、舟艇の検便を容易にする

舟艇の検便は、舟艇の一ツの用を改良した。舟艇の検便を容易にするため、舟艇の検便を容易にする  
検査所を舟艇の舟艇、離れを舟艇に設けたのである。舟艇の検便を容易にするため、舟艇の検便を容易にする

舟艇の検便は、舟艇の一ツの用を改良した。舟艇の検便を容易にするため、舟艇の検便を容易にする  
検査所を舟艇の舟艇、離れを舟艇に設けたのである。舟艇の検便を容易にするため、舟艇の検便を容易にする

舟艇の検便は、舟艇の一ツの用を改良した。舟艇の検便を容易にするため、舟艇の検便を容易にする  
検査所を舟艇の舟艇、離れを舟艇に設けたのである。舟艇の検便を容易にするため、舟艇の検便を容易にする

大分取は別明し不詳の者は二、三にて止まつた。尚ほ森原の敗戦後、死の転歸を取る患者は、  
 版原村既に遺棄不明にて、又患者の携帶物類等も無いもの、あつたので、その中に對しては鋭意障  
 害の調査、死者の殆んどに空性の地を掃蕩しめらる事おできた。  
 死体、遺骨を別國の通り、最早、海軍、一般邦人別に各々關係機關に移置したのである。

日割死体火葬数(四月七日以降六月十五日迄)

月	日	火葬数	月	日	火葬数
四月	七日	八名	四月	二十日	十名
同	八日	三名	同	二十一日	十三名
同	九日	三名	同	二十二日	二名
同	十日	四名	同	二十三日	四十六名
同	十一日	四名	同	二十四日	八名
同	十二日	四名	同	二十五日	十一名
同	十三日	四名	同	二十六日	二十四名
同	十四日	六名	同	二十七日	十六名
同	十五日	三名	同	二十八日	八名
同	十六日	十六名	同	二十九日	九名
同	十七日	二十四名			

月	日	火葬数	月	日	火葬数
五月	十四日	一名	計	十三日	十四三十一名
同	十五日	三名	同	十五日	一名
同	十六日	四名	同	二十日	一名
同	十九日	二名	同	二十三日	一名
同	二十日	二名	同	二十五日	一名
同	二十一日	四名	同	二十七日	一名
同	二十二日	二名	同	三十一日	一名
同	二十三日	二名	六月	一日	三名
同	二十四日	二名	同	三日	一名
同	二十五日	二名	同	五日	一名
同	二十六日	二名	同	十三日	一名
同	二十七日	二名			
同	二十八日	二名			
同	二十九日	二名			
同	三十日	七名			
同	三十一日	四名			

五月十三日以外の日合む